

抗菌薬感受性測定法検討委員会報告 「尿路感染症における抗菌薬のブレイクポイント」の一部変更について

平成 10 年 7 月 23 日理事会において下記のように一部変更することが承認されたのでお知らせ致します。

日本化学療法学会
理事長 熊澤 淨一

平成 8 年度に委員会報告として『尿路感染症における抗菌薬のブレイクポイント』を呈示し、最終報告として日本化学療法学会雑誌第 45 巻 711～726 (1997) に掲載された。それ以降、現在までに市販された新規抗菌薬はペネム系経口抗菌薬 faropenem の 1 剤のみであった。今回、同薬剤に関してブレイクポイントの設定を行った。

- faropenem (FRPM) 300 mg を経口投与した場合の計算式から導かれる

推定ブレイクポイント:

$$\begin{aligned} \text{計算式: ブレイクポイント} &= \text{定数} \times T_{1/2} \times U_{\text{max}} \times \text{薬剤特性} \\ &= 12 \times 0.5 \text{ (1 hr 未満)} \times 0.5 \text{ (1,000 mg/ml 未満)} \times 1.0 \\ &= 3 \end{aligned}$$

Breakpoint MIC (mg/ml)		
複雑性膀胱炎		複雑性腎盂腎炎
計算値	NCCLS 法	NCCLS 法
3	2	1